障害者支援施設「向徳舎」令和7年度
地域連携推進会議会議録

1. 開催場所 社会福法人園樹会が設置運営する、びあ smile 会議室
2. 日時 令和7年7月24日（木） 午前10時00分より10時45分迄

3. 参加者

施設職員4名

園樹会理事長：塩澤一夫

向徳舎施設長：中村潤

向徳舎生活支援課長：伊藤るみ子

園樹会開発課長：河野真吾

構成員7名

地域の関係者：戸澤清茂

地域の関係者：森浩美

利用者：MU様

利用者：YO様

利用者家族：古屋寛

福祉に知見のある人：深澤幹雄（基幹相談支援センターりんく）

福祉に知見のある人：渡邊かおり（公認心理士）

<協議事項>

1. 挨拶

塩澤理事長より、開会の挨拶と地域連携推進会議の趣旨についての説明が行われる。

2. 自己紹介

参加者の自己紹介を行う。

1. 事業所概要

中村施設長より、向徳舎の事業所概要が報告される。令和7年4月22日現在、施設入所の定員40名に対し、男性18名、女性21名の計39名が利用しています。日中の生活介護は定員50名で、向徳舎から38名、風の音から10名が利用しています。入所者の年齢構成は20代から70代まで幅広く、最高齢は78歳です。基本的には65歳以上は介護保険の利用となりますが、本人の希望により継続して入所しているケースもあり、高齢化が進んでいる状況です。障害支援区分については、区分4から6の方が在籍し、そのうち区分6の方が20名を占めています。職員数は、生活支援員26名（アルバイト、パート含む）のほか、公認心理士や理学療法士も在籍しています。

次に、令和7年度のヒヤリハット及び事故報告が行われました。事故は計16件で、内訳は転倒6件、器物破損4件、誤薬3件、外傷1件でした。ヒヤリハットは41件報告されて

います。転倒事故は利用者の高齢化、器物破損や誤薬は職員の注意喚起や確認体制の再徹底が課題として挙げられました。外傷については原因不明のケースもあり、常時すべての利用者を把握することの難しさが示されました。

2. 施設と地域の関係

中村施設長より、向徳舎の施設と地域の関係が報告される。施設と地域との関係については、月に一度、希望する利用者と職員が参加し、近隣や玉諸公園のゴミ拾いなどの地域貢献活動を行っていることが報告されました。また、行事や余暇活動では、山梨学院短期大学の学生によるバンド演奏やダンス、山梨県立高等支援学校桃花台学園の和太鼓部による演奏など、ボランティアを積極的に受け入れています。以前は地域の方々を招いて納涼祭を大々的に開催していましたが、コロナ禍や利用者の高齢化に伴い、現在は行事のあり方を見直している状況です。

3. 利用者の権利擁護

中村施設長より、向徳舎の利用者の権利擁護が報告される。利用者の権利擁護の取り組みとして、利用者による自治会「コスモス会」の活動が紹介されました。毎月1回、代表者による幹事会で施設内外の生活に関する意見交換を行い、4月には総会で1年間の活動報告を行っています。

4. 質疑応答

Q1. (中村施設長) 行事は楽しいですか？特に何が楽しいですか？

A1. (YO 様) はい、行事は楽しいです。特にパソコン教室が楽しいです。

A1. (MU 様) 旅行やクリスマス会が楽しみです。

Q2. (中村施設長) 普段はどのような作業をしていますか？

A2. (YO 様) 軽作業で貼り絵をしています。作った製品は「かいてらす」で販売していません。

A2. (MU 様) 貼り絵です。前はリサイクル作業でコンビニなどから回収したペットボトルのラベルを剥がし、洗浄して漬す作業をしていました。

Q3. (古屋寛様) 作業による収益はどのくらいあり、何に使われていますか？

A3. (中村施設長) 大きな利益にはなりません、行事のお菓子代などに充てています。

Q4. (中村施設長) 土日はどのように過ごしていますか？

A4. (YO 様) 土曜の午前はシーツなどを交換するリネン交換をし、午後は造形活動や担当職員との買い出し、家族との日帰りや宿泊での外出などを行っています。

A4. (MU 様) 担当の職員と一緒に買い物に出かけます。

Q5. (中村施設長) 日々の生活で困っていることや、施設への要望はありますか？

A5. (YO 様) 食事の際にお茶を運ぶ当番を忘れてしまうことがあり、困っています。女性棟の障害者用トイレの鍵を直してほしいです。

A5. (MU 様) 特に困っていることはありません。

Q6. (戸澤清茂様) 食事は、利用者と職員が一緒にグループで摂るのでしょうか？

A6. (塩澤理事長) いいえ。食堂で全員同じ時間帯に食事をしますが、職員は食事介助や、特に高齢化が進む中で重要となる誤嚥事故防止のための見守りに専念する必要があるため、一緒に食卓を囲むことはありません。

Q7. (戸澤清茂様) 誤嚥を防ぐため、食事メニューはどのように工夫されていますか？

A7. (中村施設長) 利用者一人ひとりの咀嚼能力に合わせて、通常の食事のほか、きざみ食やミキサー食といった個別の食事形態できめ細かく対応しています。

議事録作成者 河野 真吾